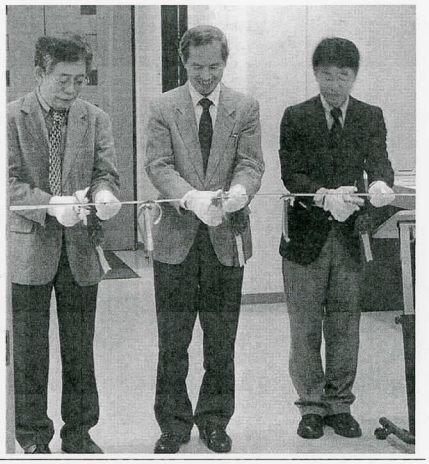
# 駒場美術博物館 資料室オープン

## 学際的展覧会カタログの宝庫

今橋映子



昨年の夏、二〇〇七年六月二五日、駒場美術博物館の中にある資料室が正式にオープンした。まだ暑さもさほどでない、初夏の静かな夕方からおこなわれた開室式には、小島憲道教養学部長を始め関係者が六〇名近く集まり、和気藹々とした雰囲気の中で、この小さいながらも充実した資料室の門出を祝った。

この資料室の主体をなすのは、現在四千冊近くに達する展覧会カタログ（図録）である。開催館ごとに整理され、収蔵されているすべてのカタログは、東大図書館OPAC（およびweb-cat）でコンピューター検索できる。東京大学に所属する教職員、院生、学生、駒場友の会の方ならどなたでも閲覧利用（一部特別貸し出しの制度あり）ができるので、次のHP案内などをご覧の上、有効に活用して頂きたいと思う（http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/library.html）。

展覧会カタログは「本であって本でない」、実に不思議な資料体である。これは元来、展覧会を案内する小冊子として制作されているものなので、書店で売っている本のようなISBN（国際図書番号）が付いていない。そのため図版の著作権等を免れて安価（オールカラーでも大体二、三千円で販売）で手に入れることができる反面、書店で販売されないため、入手はいつでも手間がかかる（詳細は、今橋編著『展覧会カタログの愉しみ』東京大学出版会、二〇〇三年参照。ちなみに欧米の展覧会カタログはISBNが付いているので、書店を通じて購入できる）。実はこの度の資料室に入っている四千冊近い日本語カタログもまた、その半分以上は一冊一冊、手間暇かけて取り寄せてきたものなのである。

駒場美術博物館は、二〇〇四年度に全面的改修を行って、あのドーム型の展示室を持つ立派な美術館に生まれ変わったが、資料室はその時に、新たに設けられたものである。改修前からの展覧会カタログや各種年報、展覧会ポスターなど、すでに蓄積された資料がなかったわけではないが、あくまでも偶然寄贈されたものが主であり、研究教育にそのまま使えるような充実した状態ではなかった。その後二〇〇五年度から三年間をかけて「資料室整備プロジェクト」が進行し、計画的にカタログのための情報収集、購入と整理、図書登録、そして図録交換事業がおこなわれていった。計画的情報収集には、大学院比較文学比較文化研究室に所属する院生たちが委員会組織でそれを担ってくれており、現在も活動を続けている。また購入と整理にあたっては、美術博物館スタッフが常勤・非常勤職員ともその仕事にあたっている。購入された図録はその後すべて、駒場図書館の全面的御協力によって、OPAC登録されるシステムが構築された。これによって、資料室は研究教育に直結した形で使用することができるようになったのである。

もちろん私たちが自前でカタログを買える予算は、毎年きわめて限られている。そこで二〇〇五年度に、全国の美術館、博物館に呼びかけて「図録交換プロジェクト」を進めたところ、有り難いことに百を超える館から反応があり、その後も何らかのかたちで寄贈を続けて頂いている。こうして約三年間にわたるプロジェクトの末に、昨年夏の開室にたどり着いたというわけである。

折しも二〇〇七年には六本木に国立新美術館がオープンし、その資料室は展覧カタログを徹底的に収集するという目標を掲げている。都内には国立近代美術館図書室や東京都現代美術館図書室など、充実した資料室を誇っている施設も少なくない。そうした公的機関に比べれば、駒場の資料室はほんの小規模なものにすぎないが、それでも関係する私たちが心がけてきたこともある。

それは、駒場らしい研究教育に直結した資料体の形成――つまり学際的展覧会への着目と、精選された資料体の収集という方針である。分野としては美術のみならず、歴史、文学などにまたがる展覧会に着目している。また「図録」として印刷精度が高いものという観点だけでなく、最新の研究成果が生かされた資料価値の高いもの、あるいはデザインの凝った美しい本にも近いカタログなどを精選して購入するように努めている。それは近年、単に名前の通った「巨匠」の作品を時系列に並べるような展覧会から、テーマや視点に学際的成果を生かした展覧会へと、美術館博物館自身がその企画を転換させてきている状況と呼応している。興味深いことに、資料価値の高いカタログほど、一冊の本としても美しいものが多く、そこには企画者の情熱や思いが感じられる。文化行政が「箱物」と批判されて久しいが、しかし一方ではこうした実績が確実に積まれてきていることも、カタログを通して私たちは実感できるのである。私自身はこの秋から、資料室を実践的に使うゼミも開講し、学部生や院生たちと大いに楽しみつつ勉強している。学内の皆さんの積極的利用を、心からお待ちする次第である。

（超域文化／フランス語）

教養学部報

東京大学教養学部
発行人　宮川雅雄
2008年1月9日

1面「学際的展覧会カタログの宝庫」今橋映子、「駒場祭を検索する」松岡宏
2-3面「駒場の樹木」著本春樹、〈学び方新シリーズ〉「化学」真船文隆、「大学での数学」細野忍
4-5面〈身体運動カリキュラム改革〉④基礎科目」久保田俊一郎、「⑤救急処置」渡會公司、「入間の安全保障プログラム」数理
6-7面「アーベル和算」後藤剛行、「反米・その歴史と構造」遠藤泰生、「RALS」永田敬、〈時に沿って〉旭英昭
8面「東アジア四大学フォーラム報告」原和之、「赤ちゃんラボ」開一夫